

R 4 年度 学校教育の努力点とその推進計画

1 主題 主体的に学習に取り組むみずほっ子の育成

～みんなで、よりよい学級・学校生活をつくることを通して～

2 ねらい

本校では、R 2 年度は新学習指導要領完全実施に伴い、「主体的に学習に取り組むみずほっ子の育成」を目指し、学習評価の在り方の研究に取り組んだ。育成したい側面である「調整力」については、児童の行動と成果物の変容の痕跡とを因果関係的に関連付け、めあてに即したものへと高めていこうとしているかを評価していくことが大切である。そのため、子ども自身に自分の考えやその変化を記録させたり、成果物に変容の痕跡が残るようにしたりする工夫が必要である。また、R 3 年度は、多様な学びに目を向け、その中で引き続き「主体的に学習に取り組むみずほっ子の育成」を目指した。具体的には、低学年では生活科で、中高学年は、総合的な学習の時間における問題解決学習の中で、主体的に学習に取り組む児童を育てていくことを研究のねらいとして取り組んだ。生活科、総合的な学習の時間ともに、異学年や学校外の人に対して発信するという最終目標を設定したことで、主体的に学習に取り組む姿が見られるようになった。これは、学級内で発表したり掲示したりするだけでは、十分に味わわせることができなかったよい緊張感や責任感を意識させることができたからだと考える。また、目標を達成するために子どもたちが、自由に考え行動できる場を保障し、教師がやりすぎない、見守るといった心構えの大切さも必要だと分かった。その中で、子どもたちに、めあてをしっかりとつかませ、見通しをもたせることが、主体的に学習に取り組むことができるための基礎的な土台となった。その上で、十分な時間の確保をし、子どもたちの考えたことに対応するだけの教師の待つ姿勢や柔軟性、子どもたちが失敗してもやり直せるしなやかさなどが大切である。それとともに、子どもたち自身も、うまくいかなかったことにめげず、再び挑戦する粘り強さが必要であることに気付くことができた。

そこで、本年度は、この2年間で学んだ主体的に学習に取り組む態度や姿勢を生かす場として、特別活動を中心に研究に取り組んでいく。特別活動である学級活動、委員会活動、クラブ活動、学校行事などの場面で、「集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決する」ことを通して、資質・能力を育み、その力は将来の様々な集団での生き方につながると考える。これまでの2年間に各教科等で育成した主体的に取り組む力を、実践的な活動である特別活動を通して、社会生活に生きて働く汎用的な力として確かなものに育てることができるであろう。

3 ねらいに迫るために

○ 実践計画について

昨年度同様、「主体的に学習に取り組むみずほっ子の育成」を目指し、子どもの学びに還元できるような評価を継続して研究していく。その中で特別活動の時間に絞り、主体的に取り組むことができるような活動を探っていく。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価では、今年度も、自らの学習を調整しようとする側面を中心に、前後期末、学年末に評価を還元するだけではなく、どのタイミングでどのように子どもに還元することが、主体的に学習に取り組む児童の育成につながるのかを、研究していきたい。

また、「学級」や「集団」の子ども全員が、相互にプラスに作用する存在となることを意識し、成果を出すために必要なコミュニケーションができる集団になるように指導支援をしていくことが、「主体的に学習に取り組む」ためには、必要不可欠であると考ええる。